



絶滅危惧植物の送粉者に関する研究

生物資源科学部 教授 宮永 龍一

花を咲かせる植物、つまり被子植物は花粉を運搬する生きもの（送粉者）の助けを借りて世代を繋げています。ほとんどの被子植物は昆虫を送粉者として利用しています。一方で花を訪れる昆虫は、花の蜜や花粉といった食べ物を花から得ています。

ガガイモ科の植物であるスズサイコは、生育地である草原の減少などにより個体群が衰退し、環境省のレッドリストには「準絶滅危惧種」として掲載されています。島根県内でも各地の個体群が衰退し、いずれも消滅寸前とされています。

私たちの研究室ではスズサイコの保全を目的に、どのような昆虫が花粉の運搬を行っているのかを明らかにするための調査を県内でわずかに残された自生地（三瓶山）で行いました。その結果、シロテンウスグロノメイガというガの仲間が主要な送粉昆虫であることを明らかにしました。このような研究を通して、地域の生物多様性の維持や環境の保全に貢献したいと願っています。



スズサイコの花



スズサイコに訪花するシロテンウスグロノメイガ